

『人生の戦い』おはようございます。日曜日の朝の第二礼拝によろこそ。日曜日は二つの礼拝があります。最初の礼拝は、聖書預言に関するものです。毎週、聖書預言のアップデートをしています。これは日曜の朝 9 時から、インターネットで ライブ配信されています。そして午前 11 時 15 分に、第二礼拝があります。これは、神の御言葉の学びです。今日は、テモテへの手紙第一です。一章ずつ、一節ずつ進めています。今日の聖書箇所は、第 6 章 11 節から 16 節までです。オンラインでご参加の方は、その箇所をお開き下さい。その間にお知らせしますが、私たちの新しいウェブサイト、” jdfarag.org” がほぼ完成しました。これを主が、どのように用いて下さるのか、本当に楽しみです。まだの方は、ぜひ” jdfarag.org” のウェブページで ご登録下さい。この動画の下の説明欄にリンクがあります。そのリンクをクリックしてサイトに行き、メールアドレスを入力します。そうすれば、このサイトに新しい投稿がある度に 通知が届きます。まだの方は、是非とも登録されることを お勧めします。さて、第一テモテ、第 6 章。ここにおられる方は、ご起立をお願いします。私が読みますので、ついてきてください。無理な方は、座ったままで結構です。11 節です。先週、10 節まで終えました。使徒パウロは、テモテという名の若い牧師に 手紙を書いています。テモテはこの時、エペソの街にいます。それで、11 節。

テモテへの手紙第一 6 章

11 しかし、神の人よ。あなたは これらのことを避け、…

これらのこと？ これ以前の節でパウロは 強欲な人の話をしています。ここでは、テモテを神の人として 語りかけています。

・・・あなたはこれらのことを避け、義と敬虔と信仰、愛と忍耐と柔和を追い求めなさい。

12 信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。 あなたはこのために召され、多くの証人たちの前で すばらしい告白をしました。

13 私は、すべてのものにいのちを 与えてくださる神の御前で、また、ポンテオ・ピラトに対して すばらしい告白をもって証しをされた キリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。

14 私たちの主イエス・キリストの 現れの時まで、あなたは汚れなく、非難されるところなく、命令を守りなさい。

私がたまらなく好きなのは、パウロがこのように 主が戻って来られることについて、教会の携挙、主の現れについて 語ることです。私はまた、パウロがこうするのも大好きです。パウロは頻繁に、突然、賛美を始めます。

15 キリストの現れを、定められた時に もたらしてくださる、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、

16 死ぬことがない唯一の方、 近づくこともできない光の中に住まわれ、人間がだれ一人見たことがなく、 見ることもできない方。この方に誉れと永遠の支配がありますように。 アーメン。

素晴らしい！ 一緒に祈りましょう。主よ、心から感謝します。主よ、このみことばに感謝します。今朝、ここにある、あなたの御言葉の この箇所に感謝します。主よ、私たちは今、あなただけが出来るように、 聖霊により、私たちの注意を引いていただく 必要があります。そして、あなたが私たちの注意を 引いてくださったら、それを保っていただくかねばなりません。私たちの思考がさまようことのないように。よくそうなりがちですから。なぜなら、主よ。私たちは、私たちの前にある この箇所で、あなたが私たちに悟らせようと しておられるものを、何一つ 見落とすたくないからです。ですから、主よ。御言葉を通して、私たちの人生に語りかけてください。イエス様の御名によって、お願いします。アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございます。今日は、信仰の戦いを立派に戦うということが 本当に何を意味するかについて お話したいと思います。気づいているかどうかに関わらず、私たち一人一人が 人生

最大の 戦いの中にいるのです。でも、ここが問題です。それは私たちが思っているような戦いではないかもしれません。どういう意味かを説明します。私たち一人一人は例外なく、この人生の戦いに巻き込まれがちです。その上で、私たちはこれが霊的な戦いであり、その戦いが永遠の命のためのものであるという事実を、見失ってしまいます。私たちはそれを得るために働くわけでも、戦うわけでもありませんが、それはこの世での戦いなんです。パウロがここで話しているのは、そういうことなのです。この箇所をどのように教えようかと 準備し、祈っているうちに、主が私にある事をさせたがっていると感じました。私があまりやらない事ですが、しかし、これはそうするのに 最も適している箇所だと思います。私は質問をすることで、それに アプローチしていきたいと思います。聖書本文からの質問です。三つの質問があります。パウロが言うところの、信仰の戦いを立派に 戦うという事に関して、私たち全員が 自問すると良いと思う質問です。立派な戦いです。それは戦いなんです。この世界は戦場です。遊び場ではありません。それは戦場であり、それは戦いなのです。最初の質問です。それは 11 節と 12 節にあります。『それは正しい戦いなのか?』このようにこの質問することは、一見、 分かり切ったことのように見えるかもしれないのは、分かっていますが、実際には、多くの人はこうやって 窮地に陥るのです。私たちが窮地に陥るのは、間違った戦いを、 間違った方法で戦うためです。間違った戦いとは、現世における、 今の人生のための戦いであり、永遠の命を得ることを犠牲にして 成り立っています。使徒パウロがそういう言い方をしたのは、面白いと思います。彼は、「信仰の戦いを立派に戦う」と言います。信仰の戦いを立派に戦うとは、永遠の命を つかみ、それを手放さないことです。それが戦いなのです。私たちの人生の戦いは、永遠の命のためであり、間もなく見て行きますが、パウロはここで、 それを詳しく説明しています。彼が言っているのは、 信仰の立派な戦いは、永遠の命の戦いであって、現世での命のための戦いではない、 ということです。私たちが間違った戦いをすると、 窮地に陥ると言うのは、そういう意味です。私たちは、私たちの権利のために戦い、自分のために戦います。それは、永遠の命を手に入れるための 立派な戦いを犠牲にして成り立つ、 この世の命のための間違った戦いです。ルカの福音書第 9 章 23 節と 24 節で、「イエスは皆に言われた。『だれでも わたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、[自分自身に死んで]日々自分の十字架を負って、』」ああ、そう書いてなければいいのに.....。日々。ある人が言ったように、 日常生活の問題は、それが日ごと、毎日だということです。朝早く起きて、主を求める。(詩篇 63:1 参照) あなたが最初にしなければならないのは、 鏡に映った自分の顔を見て、「お前は敵だ」と自分に言い聞かせる事です。「お前は消えなければならない。」「お前は死ぬ必要がある。」私たちはそれに抵抗します。そうでしょうか? 正直になりましょうよ。私たちは抵抗します。自分に死にたい人がどこにいますか? ヘーイ! 「私は、自分のために生きたい。」「どうせ死ぬなら、尊厳を持って死にたい。」さあさあ! 十字架を担いで。さあ、 行きましょう。「十字架を担ぐ?」今の時代、私たちは十字架を、その当時の 十字架とは異なるものにしてしまっています。こんな比較をしてすみませんが..... もっと良い比較があれば 教えてください。しかし、これが私が思いつく 最善のものです。十字架は、今の時代の 電気椅子のようなものです。前もってお断りしましたね? でも、そういう事を意味するんです。それは死を象徴していました。イエスは、言っています。「あなたはわたしに従いたいのですか?」はい、従いたいです! 「よろしい、ではこうしなさい。」何? 「あそこに十字架があるだろう?」 いやだ——! 「それを担いなさい。」自らを否定し、自分に死ぬ。実際、イエスは、それをしない限り、あなたは、 わたしの弟子にはなれないと言われたのです。自我は死ななければならない。イエスは、「十字架を負って、日々、 わたしに従いなさい。」と言ってます。それから、このように言われます。よく聞いてください。「自分のいのちを救おうと思う者は それを失い、…」この世で、自分の人生のために 戦うのはやめなさい。「わたしのためにいのちを失う者は、 それを救うのです。」— 24 節—これは、パラドックス(逆説)中の パラドックスですね。私たちがクリスチャンとして、 大きな過ちを犯すのは、私たちが信仰のパラドックスに 抵抗する時だと思います。信仰の立派な戦い。上がるためには、下らねばなりません。あなたは生きたいですか? では死ななければならない。イエスが盛んになることを望むなら、 あなたは衰えなければ

ばならない。それが信仰のパラドックスです。それが信仰の戦いを立派に戦うことです。もし聖霊の靈感を受け、この事について 多少知っている人間がいたとしたら、それは使徒パウロでした。使徒の働き 20 章... ちなみに、使徒の働き 20 章は素晴らしい章です。私の大好きな章の一つです。私は聖書の全ての書、全ての章について、そう言ってますが... とにかく、とても素晴らしい章です。使徒パウロは、エルサレムに行くように 求められていることを知っていて、そこに着いたら、遊び事ではないことも知っています。そこに着くまでずっと困難な戦いが続き、到着した後も、間違いなく 困難が待っています。そこで彼は 22 節でこう言います。 ルカが書いています。「ご覧なさい。私は今、御霊に縛られて エルサレムに行きます。そこで私にどんなことが起こるのか、 分かりません。」「ただ、聖霊がどの町でも私に証しして 言われるのは、鎖と苦しみが私を待っているということです。」—23 節— 「けれども、...」そして、これが鍵です。これが秘訣です。私は世がハイジャックした言葉を使うのは嫌なんです、それに、アラブ人がハイジャックという言葉を使うべきじゃないのは分かっています。。。

成功の秘訣は... 私は世がハイジャックするのがすごく嫌です。ところで、私たちは木曜日の夜の 伝道者の書の学びで、これについて 話したんですが、第 10 章だけでも、伝道者の書第 10 章という、たった一つの章から、現代のことわざがいくつ出てきたか 知っていますか。「玉に傷 (fly in the ointment)」という言葉を知っていますか？ 伝道者の書第 10 章 1 節。「風のたより (a little bird told me)」という表現がありますよね。伝道者の書第 10 章。ところで、ツイッター、鳥？ 伝道者の書第 10 章。どんなもんでしょう？ 私はそうされるとすごく嫌なんです！ 彼らは神の言葉から取って... まあとにかく... 話を戻します。これが成功の秘訣です。私は世からそれを、取り戻しています。クリスチャン生活を成功させる秘訣。準備はいいですか？ 行きますよ。これです。「自分のいのちは 少しも惜しいとは思いません。」それが理由です。彼は言います。「私の唯一の目的は、」私はすでに自分に死んでいる。私はすでに自分を否定している。あの十字架が見えますか？ 私はそれを担いだ。その十字架にはかなりの走行距離が 付いています。私はそれを毎日、日々、運転しています。私はそれを担ぎました。この比喩に注目して下さい。彼は言います。私の唯一の目標は、「自分の走るべき道のりを 走り尽くすこと」です。これはまたすぐに出てきます。そして、「主イエスから受けた、神の恵みの 福音を証しする任務を全うできる」こと。パウロは、先人のエステルのように... 預言アップデートで その話をしましたが、モルデカイはエステルに言います。「あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」あなたがこれをしないなら、救いは、別の所からやって来る。つまり、エステルよ、あなたが自分の命を 危険にさらして、招かれずに王に 近づくのを拒否するのであれば、あなたにそれをする気がないなら、神は、誰か別の人間を見つけるだろう。すると、彼女は、あの身も凍るような 有名な発言をしました。

「私は、死ななければならぬのでしたら、死にます。」(エステル 4:16)

うわあ。彼女が自分に死んだからこそ、救われた命を見てください。「私は、死ななければならぬのでしたら、死にます。」私は、ヨブを思い浮かべています。彼はこう言いました。私たちがヨブ記を勉強していたとき...あれは試練でした。ヨブ記は試練の話です。それを学ぶのも、また別の試練です。その書の内容は... 試練とはこのことです。ヨブはこう言うに至ります。たとえ神が私を殺しても、私を殺害しても、私を死なせたとしても、それでも私は神をほめたたえ、神を信頼します。それはすでに死んでいる男です！ またしても.....お許し下さい。これは賜物なのです。でも、要点が伝わります。死人はひるまない。考える時間をあげます。80 年代の言葉を借りて言えば、ちょっとヤバいのは分かっていますが、死んだ人はひるまない。死んだ人は動かされない。だからこそ、使徒の働き第 20 章で、使徒パウロは、私を動かすものは 何もないと言うことができたのです。どうして動かされ得よう？ 私はもう死んでるのだから。私はすでに自分に死んでいるのだ。ぶっちゃけ、それは格闘でしたよ。私はすでに死んでしまった。何も私を動かさせません。この人生？ ピューッ！それは私には何の意味もありません。何の意味もありません。この世界での生活にしがみつぎ過ぎていると、戦いになるのは事実ではないでしょうか？ 私たちはこの世が大好きです。正直になりましょう。私たちはこの世と、この世のもの

のが大好きです。そして、そこに、葛藤と戦いと苦悩があるのです。テモテへの手紙 第二、4章まで行くと… そこまで行きますよ。携拳が先に起こるかもしれませんが、この書も学びます。7節と8節で、パウロは生涯の終わりを迎えています。彼がテモテに言っていることに 耳を傾けてください。彼は言います。私は戦った。戦った。過去形、勇敢に戦った。ある人が言いましたが、彼が「私は楽しく踊った」とは言っていないことに 注目してください。違います。「私は勇敢に戦い抜き、…」そして、彼は、別の比喻を再び使っています。 今日、オリンピックとして知られている、当時のオリンピックを引き合いに出して、「走るべき道のりを走り終え」た と言います。待って。では、パウロさん、あなたは、最初の手紙でテモテに書いて いますが、「信仰の戦いを勇敢に戦い」、そして、競走を走り終えたとは？ はい、そうです。ワオ。そして彼は「信仰を守り通しました」と言います。私は手放さなかった。それを掴み、握って離さず、しがみつき、必死で、永遠の命のために…… 握りしめた。「あとは、…」 私はこれが大好きです。「義の栄冠が私のために 用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。」彼が何の日のことを話しているか 分かりますね？ 彼は教えてくれます。次にこう言います。

「私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。」—8節—
パウロは、それを今日の私たちの聖書箇所で 言ってます。彼は、主の現れの時まで、それを握りしめ、信仰の戦いを勇敢に戦いなさい と言っています。そして、彼は言います。「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。 私はそれを掴み、それを手放さなかった。そして今は、と言うと？ 義の栄冠が私のために用意されている。男に冠って、なんだか変な感じで、「げーっ。それは女の子のものだ。」私の言うことを信じてください。 この冠はもらった方がいいんです。男性の皆さん、こんな風に考えてみてください。私たちが王の前に投げ出す王の王からの 王冠を思い浮かべてください。私たちが主の前にひれ伏して賛美し、「屠られた子羊は賛美を受けるにふさわしい」と礼拝する時に。ああ、待ちきれません。二番目の質問は、13節の最初の部分です。『主は私の守り主ですか？』この戦いで私を守っているのは、主か？ この信仰の立派な戦いで。さて、最初に読むと、主がポンテオ・ピラトの前であかしをされた事に パウロが言及しているのは、場違いのように思えます。彼は信仰の戦いを勇敢に戦うことについて 話しているのです。永遠の命をつかみ、手放さないことについて。それから、パウロは、ポンテオ・ピラトの前で 裁判にかけられ、あかしをする イエスの話をします。どう言うこと？ 何を言っているのか？ なぜそれを、議論の中に持ち込むのか？ しかし、よく調べてみると、それは完全に理にかなっています。その理由は、イエスは、ピラトの前で自己弁護を しなかったからです。それは、イエスに防御手段がなかった というわけではありません。イエスが弁護のために持っていた力は、御父から来るものであるということです。この戦い、つまり、この信仰の戦いでは、主が、私たちの護りです。主は私たちの盾です。主は、この戦いにおける 私たちの力の源です。この件は、もう少し後に話します。ヨハネの福音第19章11節。これは強烈です。なぜなら、イエスはピラトの前で裁判にかけられ、ピラトがイライラし始めているから。その描写を読んでみると、こんな感じです。「なんで弁解しないんだ！」イエスは、人類の罪のために 死ぬために十字架に向かう途中です。イエスがピラトに言ったことばは、私の心を捕らえます。「私の王国がこの地上にあると思うのですか？」 「そうではない。」 「私の王国はここにはありません。」 「私の王国がここにあるなら、私の弟子たちは戦うだろう。」 「しかし、彼らは戦わない。」私はペテロのことを考えます。私はペテロが大好きです。ああ、早くペテロに会いたい。マジで。天国に行ったら、ペテロに謝罪しないと いけない人が多いんじゃないかと思います。いや、本当に。あんなに評判の悪い男も少ない。ペテロは失言癖を罹っていたとか、色々、でも彼を正當に評価してあげないと。考えてみて下さい。あの嵐の時、ガリラヤ湖で船に乗っていた弟子たち全員の中で…イエスが水の上を歩いて来られると、弟子達はパニックに陥っています。幽霊だ！ 死んでしまう！そして、ペテロは、「待て！あれは主だ！」と言います。それから、彼は「私に、来いと命じてください」と言います。聖書には書かれていませんが、私はペテロがイエスにこう言った時の、弟子たちの表情を見てみたかったです。「イエス様、本当にあなたなら、私はあ

なたの所に行きたい。水の上を歩きたい。」他の弟子たちは、ペテロ！ ペテロ！ どうしていつもそうなんだ！ 彼は舟から踏み出して、そして、水の上を歩きます。弟子たちは、まさか、そんな事が！ - あるんだよ！ 私は、ある聖書の教師が言ったのが気に入ってます。彼が言ったのは... 聖書には、ペテロがイエスから目を離したとあります。だから彼は沈み始め、溺れそうになったのです。ある人が言ったのは、...彼は嵐を見て、それがペテロを沈めたもので、これはまた別の教えであり、重要点ですが、しかし、この人が提案したのは、ペテロがイエスから目を離したのは、ペテロが弟子たちを見返して、「ハッハッハ！俺を見てくれ！お前たちはまだ舟の中か！」と言ったからではないか、と。ブーン！ 水没！ 分かりません。いつか分かるでしょう。言いたいことは、要点があるのかと思ってる方もいますが。ありますよ。ちょっとお時間をください。要点を言いますから。イエスは言われます。私の弟子たちが戦うなら、彼らはこの地上の私の王国のために戦うだろうと言っています。しかし、彼らは戦っていない。私の王国は地上のものではないからだ。それは天にある。それは間違った戦いです。彼らはわたしを守ることはない。ペテロは試みましたよ。ゲッセマネの庭で。覚えてますか？ というのも、この男は、... 正当に評価してあげないと。主に、「私に命じて、水の上を歩かせてください」と言った勇氣？ そして、ローマ軍全体を相手にする勇氣。彼は剣を取り出します。そこにイエスがおられて、イエスは弟子たちに、「わたしは十字架で死ぬ」と言われたばかりです。そこでペテロはどうしたでしょう？「私の目の黒いうちはそうはさせない。」すると、イエスは彼に言われました。「下がれ、サタン」。何だって？ ペテロが、サタンだったわけではありませんが、こんな感じでした。おいおい、ペテロよ。わたしは十字架につかねばならないのだ。サタンはわたしを十字架に行かせたくない。なぜなら、わたしが十字架に行って、葬られ、再びよみがえれば、彼は終わりだと自分で知っているからだ。彼は敗北した敵です。なぜなら、わたしは人間のすべての罪のために代価を全額支払うときに、悪魔と死をともに倒すからだ。だから、この「いいえ、そんな事はない」という考えは... いや、ペテロよ。お前のためにもそれがいいのだ。その方がお前のためだ。しかし、彼は全ローマ軍に立ち向かう勇氣を持っています。そして、彼は何をしたでしょう？彼は剣を取り、しかもその兵の名前まで記されています。ローマの兵士、マルコス。はい、マルコスと言ったのはどなたですか？ 10ポイント差し上げます。何のためのポイントか知りませんが、10ポイントゲットです。マルコス。彼は、耳を切り落としました。彼は首を切ろうとしていたのです。勘違いしないでください。どうでしょうね。マルコスは避けたと思ったら、耳が切り取られた。イエスは「おい、何やってんだよ！」って感じですよ。これは靈的な戦いだ。あなたは肉の武器で靈的な戦いをしている。パウロだったら言うでしょう... この戦いにおける私たちの武器は靈的な武器である。これは物理的な身体の戦いではありません。私はcarnal（身体）という言葉が大好きです。今日では忘れ去られた言葉ですね。carnal（身体）の意味を知っていますか。皆さんの昼食が台無しになりそうだけど..... まあいいでしょう。それは肉体、肉という意味です。お店でチリコンカーンの缶詰を買いますね？ それは唐辛子（チリ）と肉です。では、ボナペティー（召し上がれ）。そういう意味です。カルネ、身体、肉体、肉。分かりましたね？ ペテロ、あなたは間違った戦いをしている。あなたは肉体の武器で靈的な戦いをしている、肉的な武器。イエスはピラトに言いました。あなたは私に対して何の力も持っていない。それが、上から与えられるのではない限り。皆さんは分かっていますか？ イエスは、指を鳴らすことさえ、それさえ、する必要はなかったのです。それか、私たちがハワイでやるように、眉を上げることも。（眉を上げる）結構よくできましたよね。練習してるんです。なかなか上手くできてますよね。（笑）さて、もう十分です。眉を上げるだけで、天のすべての軍勢が、救い主を守るために、ミリ秒で降りてきたことでしょう。しかし、そうなりません。なぜでしょうか。なぜなら、「これはわたしの戦いではないからだ。」「わたしの戦いはこのためではない。」私は木曜日の夜にお話ししましたが、私が何を言っても関係ないんです。もしくは、私がどのように言うかさえも、関係ありません。敵はとても狡猾です。そして、彼はそれをねじ曲げます。私は木曜日の夜に話していました。この「Kingdom Now theology/ キングダム・ナウ神学」という偽の教え、「支配神学」この間違った教えを一言で言うと、次のようになります。できる

だけ簡単にします。簡略化しすぎでなければ良いですが、しかし、基本的にそれは…「天の王国を、今、地上に。」「だから、私たちは戦い、世界を勝ち取り、イエスのために世界中の支配権を取るのだ。」それは「支配神学」と呼ばれています。キングダム・ナウ神学と呼ばれています。そして、申し訳ありませんが、それは悪魔の教義です。イエスは、ここはわたしの王国ではないと言いました。「何をしているのか?」「ペテロよ、」「わたしの王国はここではない。」「なぜあなたはここで、わたしの王国のために戦っているのか?」「わたしの王国はここにはないのに。」「わたしの王国は上からくるのです。」つまり、あなたが自問し始め、そして次のような質問を 本心にじっくり考える時…「これは正しい戦いだろうか?」そして、「主が私の守りとなっているか?」私たちはこの点に関して、私たちの心を 探ってもらうために、聖霊に余地を 与えた方が良いと思います。こう言われています。もし、自分で自分を守るなら、神はあなたにそうさせます。もう一度言わせてください。あなたが自分の手で問題を解決しようとし、戦い始め、「私はこんなの、我慢できない!」「私が誰だか知らないのか?!」えっと…、知りません。あなたは誰ですか? 主があなたの盾です。主に、守ってもらってください。あなたはお判りでしょうか。すべての力、イエスがピラトに言った、上から彼に与えられる力は、それは、あなたに上から与えられる力と、同じであるということ。これについて、最後にもう一つお話しします。私は 38 年間、主と共に歩んできました。私は痛い思いをして学びました。それを証明する傷跡があります。何度何度も、私は自分で自分を守りました。どうなるか分かりますか? ここが、敵がとても賢いところです。敵があなたに、自分で自分を守らせることが 出来たら、どうなるでしょう? あなたはすべての時間を、自分を守るために費やすのです。それが、敵の計画です。あなたに、自分で自分を守らせることです。主に、守ってもらってください。私が何を発見したかと言うと…振り返ってみると…「振り返ったらハッキリ見える」と 言いますよね? きっと、それもだれかが聖書から ハイジャックした諺だろうと思います。 まあどうでもいいですが。私は自分の人生を振り返り、私が神の邪魔に ならないようにし、神にお任せした時のことを 色々と考えます。神は私を守られるのですが、それはいつも、完璧でした。なぜなら、神は完璧だからです。そして、私は、「ああ、すごい。私が焦って、神より先走りして、自分で何とかしようとして、自分自身を守ろうとしていたら?」神は、こんな感じですよ…「ううっ……!」「大きな間違いだ。」「そうしなければ良かったのに。」「あなたはここで大失態をする。」そうではありませんか? 私たちがついにそれを神のもとに 持って来る頃には、私たちのことを任されている御使いたちが…私を担当している御使いたちを、とても気の毒に思いますが、彼らはこんな感じですよ…「なぜあなたは…」「そんなにも大きな痛みや苦しみを、 経験せずに済んだのに…!」「もっと早く、神のもとに来てさえいたら。『神様、あなたが私を守って下さい。』と。」「あなたがやったことを見てみなさい。 やれやれ。これを見てみなさい。」この最後の 1 つに、私たちの残りの時間を 使っていきたいと思います。13 節後半から 16 節までです。そして、これは大物です。『主が私の強みとなっているか?』いいでしょう…またしても、それは明らかに、 当たり前のように聞こえますね。私たちは歌を歌います…そして、私は、最高の賛美の歌は、 音楽に乗せられた御言葉だと 確信しています。そうですね? ところで、詩篇という書の全体は、 そういうものでした。詩篇は、歌われていた歌詞です。私はそれらの賛美の歌が大好きです。しかし、私たちはそう歌います…♪私の人生の力となってください～♪ 嘘つき!「どういう意味ですか?」だって、ほら。あなたは自分の力でやっている。あなた自身の肉のエネルギーで。そして、そのせいで、あなたは葛藤に満ちた人生を送っている。あなたは主に頼っていない。パウロがここで言っていることの重要性を 誇張できるのかどうかは分かりませんが、それは、この命令を守ることに 関連しています。これが命令であることに、お気づきですか? 命令なのですか? ーはい。私たちはこの命令を守るだけでなく、そうする上で、非難されるところがないように、しなければなりません。罪がないようにはありません。非難されるところがない。大きな違いです。さて、なぜ私がこれをお伝えし、これを強調するのかと言うと、なぜなら…よく聞いてください。命令というかたちで、それを表現することは、様相を一変させます。そして、それはあなたが考えるかもしれない 理由からではありません。パウロがこれは命令であると言って

いる という事実に基づいて見ると、それは達成可能であり、実行可能であるのです。なぜなら、それは命令だからです。もし命令でなかったなら、問題が出てくるかも知れません。どういう意味でしょうか？ 私が言いたいのは、神の命令は、いつも 神が力を与えられることと 一緒になっているのです。そして、ここに理由があります。神は私たちの不服従に 加担することは出来ません。それを行うための聖霊の力を私たちに 与えることなしに、神が私たちに何かを するように命じることはありません。それは残酷なことでしょう。そして、それは神の性質、神がどれほど良い方であるのかという事と 矛盾しています。なので、神は私たちに 何かを するように命じます。こんなふうに想像しないでください。またも、愚かな例えですみませんが、神がこう言っているとは、絶対に想像しないでください。「わたしはあなたに命じる！」「じゃあ、またな！」「上手くいくことを願っているよ。」「自分のことは自分でやるんだ。」「あとで見に来るから。」「命令を守っていた方がいいぞ！」—もし私が失敗したらどうなりますか？「おお……」私たちはそんなふうに 考えるのではありませんか？—ああ、私は やってしまいました。「ああ、神はあなたに、もう我慢の限界まで来ている！」「彼は精魂尽きるまであなたに 言ってきたのに、あなたはまた やってしまいました！ もうおしまいだ！」「あなたは何度、赦しを求めつもりなのか？」—分かりません… (泣) もう一度、ペテロの話です。私はペテロが大好きです。彼は人を赦すことに関して、主に尋ねるのです。彼はこう言います。「分かりました、主よ。 どういうことか確認させてください」私に対して罪を犯した人を、何回赦すべきでしょうか？ 7回ですか？ (マタイ 18:21 参照) すると、イエスはこう言います。「いいえ、ペテロ。」「7回の70倍です。」それって、490回？！ それってつまり、私は…ああ、とうことは、491回目は、赦す必要はないということですね？—違います！ 聞いてください。誰かがあなたに対して 490回罪を犯したとしても…あなたは毎回、その人を赦さなければなりません。なおさら、天の父は、私たちが どれだけ赦してくださっているのでしょうか。ヨハネの手紙第一 1章9節は、「クリスチャンの石鹸」と呼ばれています。「もし私たちが、自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義から きよめてくださいます。」決してこんな風に想像しないでください。天にいる神が、私たちが失敗して…「私は命じられたことを知っていたのに…これは命令で、私は命令を破ってしまっただ…」と言うたびに、天の神が、「もうたくさんだ。」と言っているとは想像しないでください。「もうおしまいだ。」と。神がこう言うとも、想像しないでください。「やってしまったのか?!」それはどれほど私たちを当惑させるのでしょうか？「それはいつ起こったのか?」「どうなっているのか?」何？神が不意を突かれたとでも？ 神が不意打ちに？ いいえ、神はすでに知っています！ 神はあなたがそれをする前でさえ、すでに知っているのです。どうですか？ そして、神は、それでも私を愛してくださっています。わお…その愛は、無尽の愛、アガペの愛、無条件の愛と呼ばれていると思います。それでは、この命令がすべての様相を一変させることに、話を戻しましょう。パウロがこのことを命令というかたちで 表現するのは、このことを意味しています。「私は今、それを行うことができます。」—ああ。しかし、それは命令です。はい。しかし、それが命令であるなら、…それは、神が私に命じた命令を 私が守れるように、神が私にその力を与えて下さることを 意味します。神は、そうするしかないのです。神は私たちを召したり、何かをするように私たちに命じられる時は、必ずそれを可能にし、それを行う力を与えてくださいます。神はそうせずにはおれないのです。そういうお方なのです。ヨハネの手紙第一 5章。私はこれで閉じていきます。私はすでに使徒の働き 20章について そうやってしまったので、ヨハネの手紙第一については 一番好きとは言えませんが、それでも…なんて素晴らしい書でしょうか。ちなみに、長い書ではありません。読むことをお勧めします。ヨハネの手紙第一、ヨハネの手紙第二、ついでにヨハネの手紙第三も。第三はもっと短いですよ。ここでお話するのは、聖霊の靈感を受けたヨハネのことです。私はヨハネの福音書の中で、ヨハネが「イエスが愛した弟子」とか 言うのが大好きです。彼が誰について言っているかご存じですか？ 自分自身のことです。ヨハネの福音書の復活の記述では、それは本当に面白いのです。ヨハネは、自分がペテロより先に墓に到着した という詳細を確実に含めるようにしたからです。そしてヨハネは、それはこんな感じで…、「イ

エスが愛した弟子は...」 「どうもありがとうございます。」 そして、ペテロ…！ ほんとに、彼はそんな風に言うんです。私たちが話しているのは、ヨハネのことです。ところで、この同じヨハネは、教会史によると、殉教者として 沸騰する油の大釜に入れられます。なぜなら、イエス・キリストを否認し、非難することを拒んだからです。そしてそれでも、彼が死ななかつたので、「この人をどうしようか？」 「沸き立つ油に入れても、死なない？」 ええ、神はまだ彼に用がある。彼は黙示録を書かなければならない。ああ、それでか。「どうすれば良いか考えがある。 彼をパトモス島に追放しよう。」 一完璧だ。さあ、片道切符だ。ところで、そこはオアフ島のような 場所ではありませんでした。そこは観光地ではありませんでした。そこは人々が死ぬために、送り込まれた場所です。彼はパトモス島にいて、 イエス・キリストの啓示を受けるのです。それがこのヨハネです。さて、なぜ私はそのように前置きしたのか？ なぜなら、「情報源を考慮すると」と言われるように、これは、聖霊の靈感を受けた人によって 書かれたものです。ヨハネがこの2節から4節で言っていることに、非常に注意深く耳を傾けてほしいのです。

「このことから分かるように、神を愛し、その命令を守るときはいつでも、私たちは神の子どもたちを愛するのです。」 (ヨハネの手紙第一5:2)

続けて聞いてください。3節です。

「神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。」 (ヨハネの手紙第一5:3)

重荷にはならないの？ 一なりません。

「神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。」 (ヨハネの手紙第一5:4)

神の力による、神の偉大さによる、信仰の立派な戦い。これが、ヨハネが続けて 次のように書く理由です。あなたが神の命令に従うかどうかで、あなたが神を愛しているかが分かると。イエスでさえ同じことを仰いました。ヨハネはそれを繰り返しています。私が子どもだった頃、私の母は… ああ、かわいそうな母。私は子どもの頃、扱いやすい子ではありませんでした。彼女はアラブ訛りの強い英語で、私にこう言っていました。そして、彼女はいつも私を「ワヒド」と呼びました。「ワヒド～！、あなたは私を愛していない。」 (高い声で) 私はこう答えます。「あなたは私のお母さんだよ。僕は愛しているよ、お母さん。」 「僕がお母さんを愛していないって、 どういうこと？」 「あなたは私に従わないでしょ。あなたが私を愛しているなら、私に従うはずよ。」 私は… 「やれやれ…！」 その後、私は救われ、ヨハネの手紙第一を読むと、 こう書いてあるのです。「神を愛するなら、あなたは神の命令を守る。」 一ああ、なんということか…！ 私は神を愛しています！ それはどういう意味なのか？ 「あなたがわたしを愛しているなら、あなたはわたしに従うでしょう。あなたはわたしを愛していないのだ。」 いいえ、そんな感じではありません！ もっとこんな感じですか。あなたが神の愛の中にいるとき、あなたには神の命令に従う力が 与えられています。そして、それは次のように作用します。それは聖霊です。それは聖霊の力です。そして、聖霊の実は何でしょうか？ 愛です。あなたは主との関係において、神を愛するあまり、神の心を悲しませるような事は何もしたくない ということに到達するのです。そのように、作用するのです。それが聖霊です。あなたは聖霊の実と、聖霊の賜物の間には、 区別があることを知っていますか？ 私たちは「実」を犠牲にして、「贈物」を強調し過ぎていると思います。つまり、…ここにいる私たちは、 聖霊の賜物を信じています。それは終焉説と呼ばれる、 また別の誤った教えです。聖霊の賜物は、今の時代のためではない という教え。私は、言い切るわけではありませんが、それは、危険なほどまでに、本当に、聖霊を冒瀆することに近い と思っています。贈物は今日のためのもので、賜物は使徒たちで、 終わったものではありません。すべての贈物は、今日の私たちにとっても有効です。しかし、贈物を軽視することよりも、賜物を強調し過ぎていることが問題です。あなたに聖霊の実があるとき、あなたには愛があり、喜び、平安、優しさ、善意、柔和さ…そして、私が嫌いな、に… 忍… 忍耐と自制心があります。律法の全体がこれに 要約されているのではないのですか？

「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神を愛しなさい。そして、あなた自身のように、隣人を愛しなさい。」

愛。私に、こんなこと言わないでください。「まあ、私は自分自身を愛していないから、隣人を愛することはできないよ。」いや、愛してますよ！あなたは自分を愛しています。それは本当は、こうであるべきです。「あなたがすでに自分自身を愛しているように、あなたの隣人を愛しなさい。」あなたはあなたを愛している。あなたは、あなたがいつも考えている人です。あなたです！朝目が覚め、一番に…私は皆さんのことを考えていません。私は皆さんを愛していますが、私は皆さんのことを考えていません。ただ正直に言います。私が朝起きて最初に、誰のことを考えているか？自分のことです！私は店先の前を歩くと…、今は（閉店して）板張りになっていますが、よく出歩いていたころは、私は自分を見えています。（店のガラスに映った自分を）昔、カメラのフィルムがあった頃…若い人たちは、「それは何？」と思ってるでしょう。まあ、それはレコードのようなものです。それは大きな黒いCDやDVDのようなものです。とにかく…フィルムを使っていた時代には、それを現像してもらわねばなりません。そして、あなたの写真が出来上がるのを、待ちきれませんでしたよね？いつも失敗作もあって、「あぁっ！このためにお金を払ったのか…！」あなたはこれらの写真を受け取ると、その写真の中で誰を探しますか？あなたの隣人ではありません！今では、ソーシャルメディアで、あぁ、そのためのアプリがあります！あぁ、ここをきれいにしないと…頭に髪を増やせるアプリはありませんか？これらの写真は…それは…つまり、それらは偽物です。それらは修正され、整えられていて、そして、すべてが縦に伸ばされて…と言うのも、年を取ると、色んな物が…、とにかく…しかし、あなたは自分の見栄えが良くない画像は削除します。「ちょっと待って！私は良く撮れてたのに！」「なんで削除するの?!」私は余計な世話をやいてますか？もし私が、それくらい神を愛していたら？それほどまでも、あなたを愛したら？私にはアプリは必要ありません。私はあなたに対して罪を犯しません。神があなたに与えたものを、欲しがることはしません。なぜなら、私はあなたを愛しているから。私は、そんなことはしません。私が最も可哀そうに思い、最も哀れに思うクリスチャンは、自分自身の力で、クリスチャン人生を送ろうとしている人です。そして、それはこんな感じです。これが最後の締めです。こんな感じです。「私はもっと一生懸命に努力します。」「ごめんなさい、主よ。許してください。」—あなたを赦そう。「もっと努力します。もう二度としませんから。」—いや、またするよ。そして、私たちは誓いを立てます。私たちは約束をします。「私は木曜日の夜に教会に行きます…！」「良いですか？どうでしょう？」—おお、それはすごいねえ。だって、あなたは木曜日の夜はテレビを見ているから…うわ〜、なんという犠牲でしょうか。はい、おせっかいですね。「私はもっと十分の一献金をする…！」「私は誓いを立てます。」そして、あなたはこれら色んな誓約をして、これら色んな約束をします。あなたは日曜日の朝には、ここでそれを行うかもしれないかもしれませんが、あなたがカムハイウェイに着く頃には、失敗してます。あぁ、この新年の決意はどうですか？ほら。何の意味があるんでしょう？1月3日くらいですかね？あなたは失敗しています。もういや。それは何故でしょう？なぜなら、あなたは自分の力でそれをしようとしているからです。そして、それは上手くいきません。私が今まで聞いた中で最高のたとえ、私はそれが誰だったか忘れてしまいましたが構いません。これは私たちがここハワイで、多少知っていることです。あなたはカヌーを持っていて、それはビーチにあります。そして、あなたはカヌーを水の中に入れてたい。それは大きな重いカヌーです。だから、あなたはそれを押して、押して、頑張りますが、動きません。なので、あなたは兄弟を連れてきて、ねえ、手伝ってくださいと言います。そして、彼らは押して、押します。1センチくらいは動きました。水の中には入っていません。つまり、私たちは自分たちの全力を尽くしています。そしてその時…、潮が満ちてきて…、私たちが、兄弟達みんなでも動かさなかったこのカヌーが…？ここで潮が満ちてきます。それはなんというか…楽勝です。私は、小指を使って水の中に押し込むことができるのです。なぜでしょうか。なぜなら、水の力があるからです。本土ではですね、ここではそれについては何も知りませんが、

本土にはダムと呼ばれるものがあります。彼らはそれを…すみません。本当に良くなかったですね。そういう意味で言ったんじゃないんですしかし、水の力を利用するのですそこから電力を得るのです。水はとても強力だから。イエスはこう言いました。「あなたが聖霊に満たされる時、あなたの人生は、生ける水の激流と同じくらい力強くなる。」と。（ヨハネの福音書 7:38, 39 参照）

あなたは洪水が、どれほど強力か知っていますか？ 洪水は家屋をつまようじのように流してしまうのです。それほど強力なのです。それが聖霊です。それが聖霊です。その力が私たちに与えられているのです。なのに、私たちはそれを用いません。お立ちください。祈りましょう。主よ、ありがとうございます。愛する天の父よ。あなたの御言葉はいのちです。いのちのパン、いのちの言葉。私はまた、ペテロのことを思います。あなたが弟子たちに教えられた後で、…そして、それは厳しい教えでした。それは非常に難しかったので、あなたは群衆を解散させた後、あなたの弟子たちにさえこう言われました。

「あなたたちも、離れていくのですか？」（ヨハネの福音書 6:67～参照）

すると、ペテロはあなたにこう言います。「私たちはどこに行けるでしょうか？」「あなただけが、いのちの言葉を持っているのですから。」主よ、ありがとうございます。これが私たちの命綱です。あなたの御言葉が。私たちはパンだけで生きるものではありません。しかし、あなたの口から出るすべての言葉によって生きるのです。そして、主よ、私たちは本当にあなたに感謝します。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7